



河北新報社、東北福祉大、仙台市などが運営する「311『伝える／備える』次世代塾」は、東日本大震災の被災者や支援者から震災の教訓と災害への備えを学ぶ通年講座です。第1期（2017年度）、第2期（2018年度）、第3期（2019年度）ともに100人を超える大学生、若手社会人が受講しました。

大学生、若手社会人、高校生の受講者を募集中!

震災を多角的に学べます



被災や支援の当事者の講話がメインの全15回。現地視察も予定しています。

コミュニケーション力がUP



講話後は受講生数人でグループワークを行います。新しい仲間とのコミュニケーションはきっと刺激になるはず。

人生観、職業観が広がる



震災の被害の現場や被災者の経験を学ぶことは、人生観、職業観を広げます。

河北新報に詳細を掲載



生活再建の課題実感
被災者に寄り添い支援を
話題の塾の受講生になることで、就職活動などの自己PR材料も得られます。

二大受講特典

河北新報データベースを無償提供

河北新報の過去記事が検索可能なサービスを無料開放します。講座はもちろん、学校のレポート、企業での資料作りにも利用できます。

修了証を交付

年間7回以上受講し、2回のレポートを提出した人には修了証を交付します。年間を通して受講とレポート提出回数が満たなかった場合、出席した講座、レポート分を次年度に持ち越せます。複数年度で7回以上の受講と2回のレポート提出で修了証を交付します。

募集要項・お問合せ

募集要項

日時：2020年4月～2021年3月（全15回）
場所：東北福祉大学仙台駅東口キャンパス、
ならびに東日本大震災の被災地
定員：50人 ※定員に達し次第メ切の場合あり

お問合せ

311次世代塾推進協議会事務局
河北新報社 防災・教室
電話 022 (211) 1591（平日10時～17時）
Email jisedai@po.kahoku.co.jp

修了生の感想



岩手県出身で震災発生時は中学1年だった。当時の記憶を呼び覚ましながら受講している。あの日、大人たちは何をしていたのか。大人になった自分は次の災害で何をすべきか。学んだことを将来に生かしたい。（大学4年・男性）



大川小で聞いた話は衝撃的で涙が止まらなかった。学校は子どもたちの希望が詰まった場所であり、「守れることができた命」だと分かった。二度と繰り返してはならない、子どもの命を守る教師になりたいと強く思った。（大学1年・女性）

日程や講義内容、講座レポートは次世代塾のFacebook公式ページで絶賛公開中!



<https://www.facebook.com/311jisedai>

運営団体

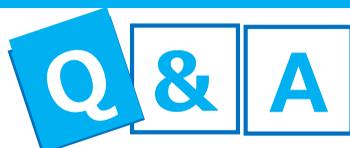
主催

運営中核
協力大学
連携・協力団体

311次世代塾推進協議会（代表・一力雅彦 河北新報社代表取締役社長）

河北新報社、東北福祉大、仙台市
東北大、宮城教育大、東北学院大、東北工業大、宮城大、宮城学院女子大、尚絅学院大、仙台白百合女子大
学都仙台コンソーシアム、日本損害保険協会、みちのく創生支援機構

詳細・申し込みは裏面をご覧ください



塾に関するさまざまな疑問、悩みにお答えします！
日程、講義内容などの詳細は[Facebook](https://www.facebook.com/311jisedai)をご覧ください。



<https://www.facebook.com/311jisedai>

受講費用は？

無料です

ただし、会場の東北福祉大仙台駅東口キャンパスまでの交通費と、午前午後と通した講座の際の昼食代は各自負担をお願いします。

講師は？

震災の当事者です

被災者、支援者、復旧・復興の現場責任者ら、震災の当事者が講師陣の中心です。体験とそれに基づく教訓を話してもらいます。

会場は？

アクセスに便利な仙台駅東口

東北福祉大仙台駅東口キャンパス（旧・代ゼミ仙台校）です。宮城県沿岸部の津波被災地を訪れる現地視察も複数回、予定しています。

震災の予備知識がなく不安です…

大切なのは「知りたい気持ち」です

塾の狙いはそもそも、震災の現場や被災者の経験を若い世代に知ってもらうことです。知識は問いません。安心してご参加ください。

日程は？

基本は月1回、第2土曜日の午前中

前期（4月～8月）後期（9月～翌年1月）に修了式（3月）を合わせた計15回のカリキュラムで震災に向き合います。

テーマは？

被災の現実を多様な切り口で

被災の現場、学校防災、避難行動、被災者支援、生活と地域の再生などの課題を多様な切り口から学んでもらいます。テーマと講師は塾のフェイスブックページをご覧ください。

全ては受講できないのですが…

講座はネットで公開します

受講できなかった場合は、後日、録画ビデオをネット視聴できます。前期、後期それぞれ2回まで出席にカウントします。

講義を聞いておしまいですか？

話し合いで学びを深めます

講話の後、グループワークを行います。何を伝え、備えにどう生かすべきか—。同世代で話し合うことで学びを深めます。



- ・QRコードを読み取り、申し込み専用フォームに入力のうえ送信してください。
- ・以下にご記入し、事務局スタッフに渡すか、FAX（022-211-1339）に送信する方法でもお申し込みいただけます。



切り取り線

氏名	(ふりがな)	性別 男・女
	(漢字)	
2020年4月の所属	(学校、会社名)	学年 年
	(学科、部署名)	
自宅住所	(郵便番号)	—
携帯電話番号	() - () - ()	
メールアドレス	※【0(ゼロ)⇔O(オー)】【1(いち)⇔I(エル)】【-(ハイフン)⇔_(アンダーバー)】など、判別しづらい文字にはよみがなを書いて下さい	
生年月日	西暦	年 月 日生 (歳)
出身地	※市町村名まで記入	
東日本大震災時の 所在、居住地	※市町村名まで記入	

【注意】 ※メールアドレスは、添付ファイル付きのメールを送受信できるよう、PCメールやウェブメールをご登録ください。
※講座の様子は新聞など各種メディアで紹介します。取材、撮影にご協力をお願いいたします。